

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

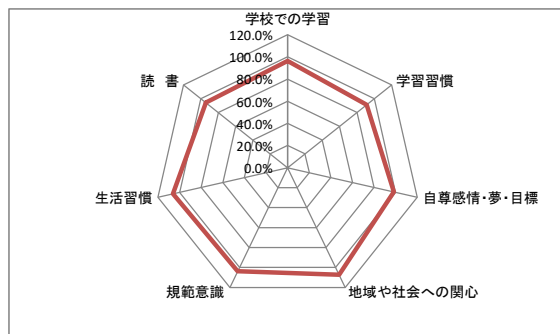
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均を下回っているが、「国語への関心・意欲・態度」については、全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」「書く能力」については、全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「文脈の中における語句の意味を理解する」「相手や場に応じて敬語を適切に使う」については、全国平均を下回っている。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」「図形」については、全国平均を下回っているが、「資料の活用」については、全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「与えられたデータから中央値を求める」「扇形の中心角と面積との関係」については、全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「数学的な見方や考え方」については、全国平均を下回っている。「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」については、無回答率が高い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「学習習慣」については、全国平均を下回っているが、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「授業では各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている」については、全国平均を上回っている。他者と関わり合いながら学び合う活動に対する意識は高いが、それを支える学習習慣づくりに取り組む必要がある。 ○「自尊感情・夢・目標」については、全国平均をやや下回っている。生徒の発達段階に応じた教育活動を通して、自己を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりする取組を行うことで自尊感情を高め、自らの夢や目標につなげることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 各教科において、基礎的・基本的な学力の定着のために、反復練習等の地道な取組を日々の授業に取り入れる。
- 学習した内容をもとに、自らの考えをまとめることができるような発展的な課題を取り入れる。
- 問題を解いたり、課題を解決したりする手順を明確にすることで、問題や課題への苦手意識をなくしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「学びチャレンジリーディングスクール」で取り組んでいる補充学習を充実させる。
- 学校だよりやホームページ等を活用して、家庭学習や読書習慣の状況について情報を発信することで、その定着に向けて家庭への協力を呼びかける。